

消防だより

令和3年(2021年)
8月末現在の出動件数

有田川町消防本部 ☎52・5950
吉備金屋消防署 ☎52・5950
清水消防署 ☎25・1243

火災 : 17件
救急 : 804件
救助 : 3件

病院紹介(和歌山県救急医療情報センター) ☎073・426・1199

高齢者の入浴中の事故防止

暑い夏も過ぎ、日ごとに過ごしやすくなってきました。これからの寒い時期に多くなってくるのが、高齢者の入浴中の事故です。入浴中の事故は、持病がない場合でも発生する恐れがあり、周りの方も協力して事故防止に努めることが大切です。

事故を防止するためには、入浴前に脱衣所や浴室を温め、湯温は41度以下に設定し、湯につかる時間は10分以内を目安にして、浴槽から急に立ち上がらないようにしてください。

また、食後すぐの入浴やアルコールを摂取した状態での入浴は控えてください。家族などがいる方は、入浴前に一声かけるように心掛けましょう。

※浴槽でぐったりしている人を発見した場合は、入浴者を浴槽から出

す。もし、浴槽から出せない場合は浴槽の栓を抜き、顔が湯につかないようにしてください。また、直ちに救急車を要請し必要であれば心肺蘇生を行ってください。



火災から命を守るために

住宅火災における死者のうち、約7割が65歳以上の高齢者となっております。逃げ遅れが約半数を占めています。火災の発見が遅れ、気付いた時には既に火煙が部屋にまわり、逃げ道がなかったと思われる事例が多く報告されています。

住宅火災から命を守るために

①火災を発生させない、燃え広がらせない

- ・寝たばこは絶対にしない。
- ・ストーブの近くに燃えやすい物を置かない。
- ・ガスコンロなどのそばを離れる時は必ず火を消す。

- ・衣類、寝具およびカーテンなどは、燃えにくい「防炎品」を使用する。

②早く知る・気付く・通報する

- ・逃げ遅れを防ぐために「住宅用火災警報器」を設置する。
- ・火災に気付いた時は、すぐに消防署に通報する。

※定期的に作動確認を行い、適切に維持管理する。

③早く消火する

- ・火災を小さいうちに消すために「住宅用消火器」などを設置する。

④危ないと判断したら素早く避難する

- ・「火災が天井に達した」「煙が充満した」「初期消火に失敗した」などの場合。

また、日頃から高齢者や体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくっておくことも重要です。

インフルエンザの感染予防

毎年秋から冬にかけて全国的にインフルエンザが流行します。昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の感染予防と並行して、インフルエンザの感染予防が必要となります。

●感染しないために

- ・咳エチケットを守る。
- ・適度な湿度(50%〜60%)を保つ。
- ・人混みへの外出を控える。
- ・予防接種を受ける。
- ・普段の健康管理に注意する。

※新型コロナウイルス感染症の感染対策(マスクや手洗いなど)がインフルエンザの感染予防につながっているとされています。

感染すると、肺炎や脳症などを併発して重症化することもあります。特に高齢者、幼児、妊婦、持病がある方は注意が必要です。自分自身や周りの人を守るため日々の感染予防を心掛けましょう。

